

(別紙 11)

愛媛県におけるジビエ利用拡大を考慮した狩猟者の育成に係る評価報告

1 狩猟者の現状や課題等

近年、県内におけるニホンジカやイノシシの鳥獣害被害が深刻化する中、県内の狩猟者については、年齢別にみると、60歳以上が令和6年度には6割以上を占め、高齢化が著しく進んでいる。継続的な捕獲のためにも、効果的かつ適正な捕獲を担う狩猟者の育成・確保が喫緊の課題となっている。

2 1の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

実施時期	令和8年1月31日(土)、2月1日(日)							
場所	八幡浜市							
目的	県内のわな免許取得5年以内の方を対象に、捕獲技術から捕獲個体の解体・ジビエ利用までの幅広い知識・技術の習得を目的とした講習会と実践的な現地実習を実施し、狩猟者の育成を図ることを目的とする。							
対象者・講師 (人数も記載)	対象者：県内のわな免許取得5年以内の方 (25名) 講師：株式会社 野生鳥獣対策連携センター							
内容	2日間かけてニホンジカやイノシシの、くくりわなによる捕獲から解体までの知識を学び、実際に現地でわなを設置し、実践的な形式で技術を学ぶ研修を実施する。							
方法	下記のとおり、研修を行った。 <table border="1"><thead><tr><th>研修内容：日時</th><th>講習・実習内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1日目 9:30~16:30</td><td>捕獲のために知っておくべき 基本生態 とくくりわな捕獲の基本(1時間) 安全な保定と止めさし(0.5時間) くくりわな作製実習(1.5時間) くくりわな設置実習(2時間)</td></tr><tr><td>2日目 9:00~16:00</td><td>ジビエ利用のための衛生管理(0.5時間) 設置したわなの見回りと評価、捕獲個体の止めさし・保定実習等(2時間) 自家消費のための解体実習(2.5時間)</td></tr></tbody></table>		研修内容：日時	講習・実習内容	1日目 9:30~16:30	捕獲のために知っておくべき 基本生態 とくくりわな捕獲の基本(1時間) 安全な保定と止めさし(0.5時間) くくりわな作製実習(1.5時間) くくりわな設置実習(2時間)	2日目 9:00~16:00	ジビエ利用のための衛生管理(0.5時間) 設置したわなの見回りと評価、捕獲個体の止めさし・保定実習等(2時間) 自家消費のための解体実習(2.5時間)
研修内容：日時	講習・実習内容							
1日目 9:30~16:30	捕獲のために知っておくべき 基本生態 とくくりわな捕獲の基本(1時間) 安全な保定と止めさし(0.5時間) くくりわな作製実習(1.5時間) くくりわな設置実習(2時間)							
2日目 9:00~16:00	ジビエ利用のための衛生管理(0.5時間) 設置したわなの見回りと評価、捕獲個体の止めさし・保定実習等(2時間) 自家消費のための解体実習(2.5時間)							
評価方法	わな設置実習等を含めた研修を行い、研修終了後、受講者を対象に講習や実習のプログラム単位でアンケートを実施							
事業費	2,242千円							
備考								

注1：項目に沿って、実施した研修会等の具体的内容及び参加人数等を記入すること。
なお、「目的」には育成したい人材像も記入し、「評価方法」には本事業の目的や育成したい人材像に対する事業内容の適切性や事業効果の検証・測定方法等を記入すること。
注2：事業終了後の評価結果では、各項目について、実施した結果を記入すること。

注：実施した研修会等の内容及び参加人数等を記入すること。

3 2の取組に対する評価と今後の課題等（事業終了後の評価結果時のみ記入）

- ・参加者は開催地周辺の新規狩猟者を想定していたが、県内各地から17名（内1名は1日目のみ参加）の応募があり、免許取得5年以内の新規狩猟者について、捕獲技術等の向上を目指したいというニーズを改めて確認できた。
- ・研修後のアンケートでは、「今後の捕獲活動に役立つと思うか」との問いに、2日間受講した16名の受講者のうち、全員が「役立つ」と回答し、高い満足度が確認された。実際の捕獲個体を利用して実施した解体実習については、9割以上の受講生から「やや満足」また「満足」と回答があった。
- ・課題としては、参加人数が想定していた25名に満たなかったことである。理由として、今回開催した講習開催時期である1月、2月が、開催場所の八幡浜市ではかんきつ類の収穫の繁忙期であったことが考えられる。八幡浜市では、受講の対象者となりうる者の多くがかんきつ農家及び従事者であると募集時期に地元猟友会から情報提供があり、開催候補地の産業構造や繁忙期等の地域特性を十分に把握したうえで、開催時期を設定する必要がある。

注：1の課題及び2の各記載内容等も踏まえ、取組が適切に実施されたか、事業目的に対して効果があったか等の評価を具体的に記入すること。
また、評価を通じ明らかになった取組目的・内容の改善点や今後の狩猟者育成の課題等についても記入すること。

4 その他

--

注：特記すべき事項があれば記入すること。